

鳥取市民文化祭参加

～日曜の午後を少し贅沢に～

第36回
鳥取市交響楽団 定期演奏会

指揮：高野秀峰

ピアノ：菊池ひみこ
(ラプソディーインブルー)

交響曲第9番 ホ短調 作品95

「新世界より」

ドヴォルジャーク

A. Dvořák: Symphony No. 9 "From the New World" in E Minor Op. 95

ラプソディーインブルー

ガーシュイン

G. Gershwin: Rhapsody in Blue

弦楽のためのアダージョ Op.11

バーバー

S. Barber: Adagio for Strings Op. 11

2014.10/26(日)

鳥取市民会館大ホール
14:00開演 (13:30開場)

【全席自由席】一般 1,500円(当日2,000円) 高校生以下500円(当日1,000円) 未就学児無料

主催：鳥取市交響楽団

後援：鳥取市教育委員会、鳥取市文化団体協議会、
朝日新聞鳥取総局、山陰中央新報社、産経新聞鳥取支局、
新日本海新聞社、中国新聞鳥取支局、毎日新聞鳥取支局、
読売新聞鳥取支局、山陰中央テレビ、山陰放送、
日本海テレビ、いなばびよんびよんネット、
日本海ケーブルネットワーク

◆プレイガイド

鳥取市民会館、とりぎん文化会館、鳥取大丸、
アコヤ楽器店、トスク本店、
今井書店(古成店、湖山店)

◆お問い合わせ

鳥取市交響楽団(事務局長)
井上 ☎090 4807-1339 まで

託児も可能です
(無料・要予約)

下記アドレスに前日までにご連絡ください。
konkoro@ncn-t.net 担当：久保田
当日も若干受け入れ可能です。



菊池ひみこ プロフィール



宮城県仙台市生まれ。7歳よりクラシックピアノを始め、12歳の時にヤマハ・エレクトーン・コンクールで第2位入賞。16歳の時に同コンクールで優勝。

その後、世界各地を演奏旅行。帰国後、プロのピアニストとして活動を始める。1975年頃よりジャズに傾倒し、藤井貞泰氏に師事。《原信夫とシャープス&フラッツ》で藤井氏の代役を務めたり、《インナー・ギャラクシー・オーケストラ》に参加してスイスの「モントルー・ジャズ・フェスティバル」に出演した。またスタジオミュージシャンとしての仕事も始める。

その一方で自らのバンドも結成し、演奏活動を精力的に展開。1980年より、オリジナルアルバムを次々と発表。CMやTV、映画等の音楽も手掛ける。1992年、映画『新極道の妻たち 覚悟しいや』の音楽を制作し、ブラス・ロック・バンド「BEAM」を率いてアルバム制作や各地で演奏活動を行った。1999年、夫でギタリストの松本正嗣と鳥取市へ移住。2000年の「中四国ビッグバンド・ジャズフェスティバル」参加を機に「HIMIKO KIKUCHI BIG BAND」を結成してライブアルバムやバンド譜を発売。2002年に鳥取県で開催された「国民文化祭」のイメージソングとして、唱歌『ふるさと』をモチーフに、ジャズ・ピアノ・コンチェルト『ふるさと ~Home In My Soul』を制作。2005年に同曲のCDも発売。

こうした制作活動や演奏活動に加え、鳥取でゴスペルグループや青少年少女合唱団を率いるなど、地域に根ざした活動も展開している。



指揮／高野 秀峰

東京生まれ。明治学院大学、武蔵野音楽大学卒業。作曲を鈴木輝昭、指揮をクルト・レーデル、ステファノ・マストランジェロの各氏に学ぶ。2001年にチェコ国立モラヴィア・フィルハーモニーを指揮し、ヨーロッパにデビュー。新国立劇場の副指揮者(2001～2006年)を経て、現在、東京オペラプロデュース、オーケストラ・アンサンブル・トウキョウなどで活躍中。桜美林大学芸術文化群講師。日本作曲家協議会会員。オーケストラ・アンサンブル・トウキョウ音楽監督。東京芸術財団音楽顧問。鳥取市交響楽団の定期演奏会では、2009年以来毎年客演を務める。アマチュアオーケストラの指導にも定評があり、昨年末の「県民による第九」での熱演も記憶に新しい。今年8月3日のムジークテアター TOTTORIオペラ公演、チャイコフスキー「エフネギー・オネーギン」での指揮も大きな注目を集めている。



演奏／鳥取市交響楽団

鳥取県東部で活動するアマチュアオーケストラ。1976年に発足。年1回の定期演奏会のほか、「県民による第九公演」のオーケストラ演奏も担う。2002年に鳥取で開催された国民文化祭では、ホストオーケストラとして、マーラー／交響曲第1番「巨人」を演奏、絶賛を浴びた。また、鳥取ジュニアオーケストラの誕生以来、指導や演奏協力を続けるほか、地域のオーケストラとして、鳥取在住のソリスト・音楽家との共演や、地域の音楽イベントへの出演等にも積極的に取り組んでいる。練習時の保育スタッフによる託児制度の導入により、子育て世代の音楽家の活動サポートにも力を入れている。

団長／上萬雅洋 コンサートマスター／久保田昌平 団員 50名

バーバー 弦楽のためのアダージョ

深い悲しみに満ちた弦楽合奏の名曲



アメリカの作曲家、サミュエル・バーバーの名曲。弦楽四重奏曲第1番の第2楽章を作曲者自らが弦楽合奏用に編曲したもの。初演は、1938年に

トスカニーニ指揮・NBC交響楽団によって行われた。アメリカ映画『プラトーン』、『エレファント・マン』など、いくつかの映画のBGMとして使用され、そのすすり泣くような旋律、美しいハーモニーで強い印象を残した。中間部終わりの、激しく突き上げる慟哭のようなクライマックスは、聴く者の心を捉えて離さない。

ガーシュイン ラプソディー・イン・ブルー

クラシックとジャズの融合 エンターテインメント性にあふれた傑作！



アメリカの作曲家ガーシュインの代表作でアメリカ音楽を代表する傑作。1924年に初演、その成功によってガーシュインは、ジャズの流行作曲家のみならずクラシック音楽の作曲家としても認められるようになった。

タイトルに「ブルー」という言葉が入っているとおり、「ブルース」のムードも漂わせ、クラシックとジャズをうまく盛り込んだ傑作となっている。曲は、音階を滑らすように駆け上がる(グリッサンド)印象的なクラリネット・ソロで始まり、ピアノによるジャジーなフレーズが次から次へと惜しげもなく表れ、オーケストラとバトンを繰り返す。夢見のような雰囲気の間奏部は、テレビのCMなどでもよく使われている。最後は、ミュージカルやショーのエンディングのような感じで華麗に結ばれる。

タイトルに「ブルー」という言葉が入っているとおり、「ブルース」のムードも漂わせ、クラシックとジャズをうまく盛り込んだ傑作となっている。曲は、音階を滑らすように駆け上がる(グリッサンド)印象的なクラリネット・ソロで始まり、ピアノによるジャジーなフレーズが次から次へと惜しげもなく表れ、オーケストラとバトンを繰り返す。夢見のような雰囲気の間奏部は、テレビのCMなどでもよく使われている。最後は、ミュージカルやショーのエンディングのような感じで華麗に結ばれる。

ドヴォルジャーク 交響曲第9番「新世界より」

「家路」として歌われる第2楽章の メロディーはあまりにも有名！



チェコの大作曲家ドヴォルジャークが1893年に作曲した最後の交響曲。オーケストラの演奏会で最も多く演奏されるレパートリーのひとつで、ベートーヴェンの交響曲第5番「運命」、シューベルトの交響曲第8番「未完成」と並んで「3大交響曲」と呼ばれることもある。

ドヴォルジャークは、1892年～1895年まで、ニューヨークにあるアメリカ国立音楽院の院長の職にあったが、「新世界より」はこの3年間の在米中に作曲された。

ドヴォルジャークがアメリカの黒人の音楽が故郷ボヘミアの音楽に似ていることに刺激を受け、新世界アメリカから、故郷ボヘミアへ向けて作られた作品だと言われている。親しみやすい旋律、ダイナミックな展開は、聴衆の耳を捉えて離さない。第2楽章のメロディーは、『家路』として知られる。

ドヴォルジャークがアメリカの黒人の音楽が故郷ボヘミアの音楽に似ていることに刺激を受け、新世界アメリカから、故郷ボヘミアへ向けて作られた作品だと言われている。親しみやすい旋律、ダイナミックな展開は、聴衆の耳を捉えて離さない。第2楽章のメロディーは、『家路』として知られる。

曲目紹介